

---

---

<埼玉発世界行き奨学生レポート NO. 5>

平成 23 年度埼玉発世界行き奨学生で、昨年度エジプトのアレキサンドリア大学に留学していました室矢明日美です。

私がエジプトに留学した主な理由は2つあります。ひとつは、アラビア語を習得するため、もうひとつは、実際に異文化に触れながら生活することで、新しい発見や別の視点から物事を考える力を養うためです。

エジプトは、異文化という点では、まさに日本と正反対の国だという印象を強く受けました。エジプトの国民の9割はイスラム教徒で、いわゆるイスラム国家です。街には至る所にモスクや礼拝所があり、お酒や豚肉も全く目にすることできません。

私が最初にエジプトに到着した時は、ちょうど断食のシーズンだったのですが、それは想像と少し異なるものでした。イスラム教の断食とは、日の出から日の入りまでが飲食禁止で、それがおよそ1ヶ月間続くため、それは修行のようにつらいものだと考えていました。しかし、実際に1日過ごしてみると、日の入り後から日の出までの街の様子は驚くことばかりでした。一日の断食が終わる夕方頃、みんなで集まって食事をし、夜中の2時頃まで子どもたちが外で遊びまわり、街全体もライトアップされていて屋台もたくさん出ています。修行というよりは、まるで1ヶ月間続くお祭りといった方がいいかもしれません。この断食（ラマダン）は、到着してすぐに経験したイスラム教の行事でもあったので、留学スタートの初日から、エジプトのとても濃い部分を見ることができ、とても刺激的でした。



(アパートの窓から)



(ギザ地区)

大学の授業は英語とアラビア語で行われます。クラスメイトは世界中の様々な国からの留学生で年齢もバラバラでした。最初に配属になったクラスでは、休み時間になるとみんな英語で話していたのですが、クラスが1つ上がると休み時間も留学生同士がアラビア語で会話するようになりました。授業内容もレベルが上がるにつれて英語を聞く機会が減っていき、アラビア語でアラビア語を学ぶスタイルになりました。私は日本ではできないこのスタイルで学ぶことに重きを置いていたので、クラスを1つ上げて本当に良かったと感じています。しかし、クラス1つ変えるにしても、何気ない生活を送るにしても、そこは異国の地なので、とてつもなく労力を要します。日本では簡単にできることでも、そこではすべてがストレスです。日本は世界的にみてもルール、規律がしっかりしていてそのルールを守ることが当たり前ですが、エジプトではルールが少なすぎる上に

そのルールすら守るという意識がとても薄いように感じます。ずっと日本で暮らしてきた私にとって、このルールのない生活がとてもストレスでした。



(留学生同士のパーティ)

大学の授業制度の説明もシラバスもないため、何がダメで、何がしてもいい事なのか、その都度一から聞いて自分で考えて交渉しなければなりません。最初はこれがものすごくストレスだったのですが、よく言えばルールがないぶん柔軟に対応してもらえ、自分の好きな様にできたので、角度を変えて考えてみれば、それはよかったことだったのかもしれない。現地の人にしてみれば、生まれたときからこの文化の中で育っているので、ルールがないからこそ、何でも柔軟に対応できる生活に心地よさを感じていることに気づきました。しかし、ルールがないと言っても、日常生活での宗教的な決まり事はたくさんあります。一日五回のお祈りや食事のことなど、慣れていない私にとっては逆に多すぎるように感じました。



(モスク内部)



(モロッコの街)

街を歩いていてよく聞かれることは、「イスラム教かどうか」「イスラム教じゃないのになぜアラビア語を勉強するのか」ということです。エジプト人にとってアラビア語はイスラム教と2つで1セットという考えがあるようです。これは他の言語ではあまり見られない特徴で、この質問を受けるたびに、アラビア語とイスラム教の密接な関係に気づかされました。そのため、留学前はアラビア語という言語そのものに興味があったのですが、留学を経験してみて、その言語をとりまく環境や宗教にも興味をもつようになり、学校の休みを利用してアラビア語の通用するトルコやモロッコにも訪れてみました。

この留学期間中、決して日本では体験できないことや、気づけないことなど本当に多くのものを吸収することができました。アラビア語の勉強は、ライフワークとして、これからも続けていこうと思います。

最後になりましたが、今回、埼玉県から奨学金を受けることができ、奨学生兼親善大使をさせていただき本当に感謝しています。特に、担当事務局の方々には、親切丁寧にご指導等をしていただき本当にありがとうございました。運が良ければ郵便物が届くような社会情勢の中で、埼玉県庁からの郵便物がアレキサンドリアのアパートに届いた時は、驚きと懐かしさが込み上げてきたことが思い出されます。これからもこの奨学金制度を活用して、多くの方々が海外に羽ばたいていくことを願っています。



(修了証書)

大東文化大学 4年 室矢明日美

平成 23 年度埼玉発世界行き「協定留学コース」奨学生

---